

Plan 2

快適にくらす

- 施策6 ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します
- 施策7 地球温暖化防止に取り組みます
- 施策8 環境教育を推進します
- 施策9 水と緑を活かしたまちをつくります
- 施策10 良好な生活環境を確保します
- 施策11 総合的な住宅対策に取り組みます
- 施策12 公共交通網の整備を進めます
- 施策13 歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します



施策 6

ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します

現状と課題

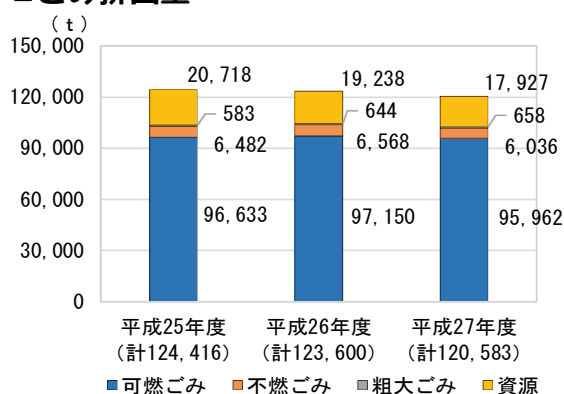
【現状】

- ごみと資源の分け方・出し方辞典やごみ分別アプリを使い、ごみ出しルールを周知を図っていますが、未だにごみと資源の分別の不徹底が見られます。
- 資源のリサイクルの推進を図るため、平成25年7月から回収ボックスによる小型家電回収に取り組んでいます。
- 平成25年3月にリサイクルセンターが稼動し、30年3月に焼却施設の基幹的設備改良を完了したことで、ごみ処理施設の安定稼動が図られています。
- ごみの減量化を進めることで、市内の最終処分場の延命化を図っています。

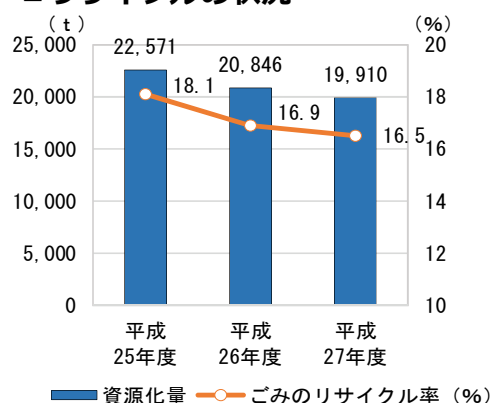
【課題】

- 市民にごみと資源の分別や処理の状況を周知し、市民一人一人のごみ排出マナーやリサイクル意識のより一層の向上を図る必要があります。
- 効率的なごみ処理と資源化を進め、最終処分場の延命化を図る必要があります。

■ ごみ排出量



■ リサイクルの状況



■ 最終処分量

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
市処分場	2,425 t	3,092 t	2,313 t
愛知県臨海環境整備センター	10,000 t	10,007 t	10,000 t
民間処分場	2,692 t	2,852 t	2,493 t
合計	15,117 t	15,951 t	14,806 t

資料：一宮市

事業展開の方向性

●ごみの排出マナー・減量意識の向上

ごみ減量啓発事業、生ごみ処理機等購入補助事業、ごみ減量モニター事業

●ごみの適正かつ効率的な処理

焼却施設運転管理事業、リサイクルセンター運転管理事業、ごみ収集事業（可燃・不燃・粗大ごみ）

●資源のリサイクルの推進

資源回収事業、リサイクル事業（空き缶・金属類、プラスチック製容器包装、ペットボトル、小型家電）

成果指標

指標名	基準値	目標値
①市民一人あたりの一日分のごみの排出量	853g	790g
②ごみのリサイクル率	16.5%	17.0%
③最終処分場の利用可能残余年数	12年11か月	6年11か月

市民の体感指標

指標名	基準値
リサイクルや分別など、ごみを適正に排出していると思う人の割合	93.4%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

- 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画

用語説明

- 4R

次の4つのRの総称のこと。

- Refuse（リフューズ）：不要なものは断る
- Reduce（リデュース）：ごみを減らす
- Reuse（リユース）：再利用する
- Recycle（リサイクル）：資源として再生して利用する

市民が考えた

「私たちにできること」



- 4Rを徹底する
 - ・買い物するとき、過剰包装を断る
 - ・洗剤などは、詰め替え用のものを買う
 - ・まだ着ることができると子どもの衣服などを、知人に譲る
 - ・分別を徹底するなど、ごみ出しマナーを守る

施策 7

地球温暖化防止に取り組みます

現状と課題

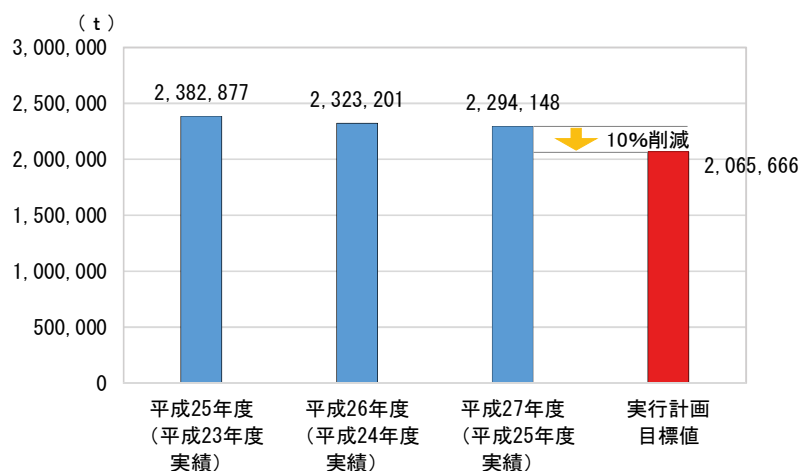
【現状】

- 地球温暖化の主な原因は、人為的な温室効果ガスの排出量の増加であるとされています。
- 国は地球温暖化対策として、平成42年度（2030年度）までに平成25年度比26%の温室効果ガス削減という目標を定め、気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）に提出し、国際的な枠組みのなかでの削減を目指しています。

【課題】

- 地球にやさしいライフスタイルを選択することが必要であり、環境に対する意識や行動の促進が求められています。
- 化石燃料の消費を抑えた「低炭素社会」を実現するためには、市民、事業者、市が一体となって取り組む必要があります。
- 平成24年4月に策定した「一宮市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の推進を図り、温暖化防止対策に取り組んでいく必要があります。

■ 温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）



資料：一宮市



エコハウス138 太陽光・風力発電設備

事業展開の方向性

●低炭素なまちづくりおよびスマートシティの推進

温室効果ガス排出量の削減事業、公共交通利用促進事業、公園・緑地整備事業、民有地緑化推進補助事業、地球温暖化対策設備導入促進補助事業

●地球にやさしいライフスタイルの選択

環境学習事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）	2,294,148 t	2,065,666 t

市民の体感指標

指標名	基準値
地球温暖化防止に配慮した生活をしていると思う人の割合	59.5%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

- 一宮市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

市民が考えた

「私たちにできること」



- 太陽光発電システムなどの再生可能エネルギーを積極的に利用する
- 公共交通機関や自転車での移動を心がける

用語説明

○温室効果ガス

地表から放出される熱の一部を吸収し地球を温室のように暖める効果をもたらす気体で、二酸化炭素、メタンなどがある。

○化石燃料

動物や植物の死骸が地中に堆積し変成してできた燃料で、主に石炭、石油がある。

○低炭素社会

温室効果ガスの排出を自然が吸収できる量以内にとどめることを目指す社会のこと。



施策 8

環境教育を推進します

現状と課題

【現状】

- 地球温暖化や自然環境破壊などが世界規模で深刻化しています。
- 豊かな自然環境を守り、次世代に引き継いでいくためには、エネルギーの効率的な利用など、環境への負荷が少ない持続可能な社会を構築することが大切です。
- 環境問題に関心を持ち、その責任と役割を理解した環境保全活動に参加できる人材の育成が求められています。
- 子どもから大人まで、各世代にわたり環境問題に関心を持ってもらうことが重要です。

【課題】

- 環境に関する情報を収集・提供し、市民意識の向上を図る必要があります。
- 環境問題を学習できる機会や活動の場を提供することが必要です。
- 次世代を担う環境活動リーダーの人材育成のためのプログラムの充実が求められています。

■ 環境学習講座の開催回数および参加者数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
回数	47回	65回	57回
参加者数	1,438人	1,667人	2,122人

資料：一宮市



一宮市環境学習講座

事業展開の方向性

●環境学習の機会の提供

環境学習事業、エコハウス138環境学習事業

●環境意識の向上

環境情報発信啓発事業

●次世代リーダーの育成

エコスクール運動推進事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①環境に関する講座などの開催回数	57回	80回
②エコスクール運動参加者の環境意識向上度	88.2%	90.0%

市民の体感指標

指標名	基準値
環境に対して責任や役割を意識している人の割合	51.1%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

- 第2次一宮市環境基本計画

用語説明

- エコスクール運動

環境にやさしい学校づくりのため、児童・生徒が自ら計画を立てて実行する事業のこと。

市民が考えた

「私たちにできること」



- ごみの減量をグラフ化し、「見える化」する
- 子どもと一緒に、川辺に生息している生き物を調べるなど、生物や環境に関心を持つ

施策 9

水と緑を活かしたまちをつくります

現状と課題

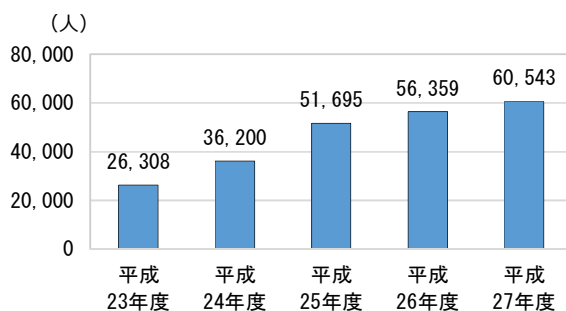
【現状】

- 本市は、県内で最も長い約18kmにわたって木曽川に接しており、この河川敷を利用した公園や自転車道・遊歩道の整備を近隣市町とともに進めています。
- 市内には木曽川から派生した河川や用排水路、池沼などの水辺空間があり、これらに沿って集落が分布しています。
- 市街化区域の都市公園は、これまで土地区画整理事業などにより計画的に公園用地を確保し、整備してきましたが、今後は、土地区画整理事業の実施が困難な状況となっており、公園用地の確保が難しくなっています。
- 市街化調整区域内において宅地化が進み、田畑が減少しています。

【課題】

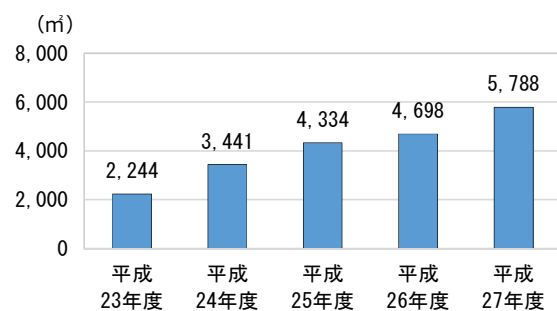
- 木曽川の豊かな自然や中小河川など、身近に存在する水と緑のオープンスペースを活用した、魅力ある水辺空間の創出が求められています。
- 子育てや健康増進など地域のニーズに応じ、安全かつ安心できる都市公園の整備の推進、施設更新が必要です。
- 生物多様性に配慮した、水と緑のネットワークを形成するとともに、民有地の緑化を一層推進する必要があります。
- 緑化活動を行う市民への支援が求められています。
- 農地は自然環境の保全や良好な景観を形成する役割も果たしており、身近な緑として継続的に保全していく必要があります。

■ 大野極楽寺公園の施設利用者数



※イベント参加者と施設利用者(バーベキュー場、グラウンドゴルフ、レンタサイクル)の合計

■ 民有地緑化面積



※一宮市緑化推進事業補助金制度を活用して整備された緑化面積の累計

資料：一宮市

事業展開の方向性

●水と緑のオープンスペースの整備推進と利活用

公園・緑地整備事業、木曽川河川敷公園整備事業、すこやか健康づくり公園整備事業、緑道整備事業、ミズベリング138事業

●民有地の緑化推進

入学記念樹配布事業、民有地緑化推進補助事業

●潤いのある美しい緑地の保全と緑化の推進

都市公園・街路樹維持管理事業、市民参加による公園管理事業、市民ボランティアによる公園花壇管理事業、花いっぱい運動事業、ホテルも生息できる環境創出事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①都市公園面積	228.40ha	238.04ha
②水辺空間を活用したイベントの参加者数および施設の利用者数	1,111,700人	1,167,200人

市民の体感指標

指標名	基準値
水と緑に親しめる場やイベントがあると思う人の割合	30.3%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

- 一宮市緑の基本計画
- 一宮市公園施設長寿命化計画
- 一宮市農業振興地域整備計画

用語説明

- 土地区画整理事業
道路、公園等の公共施設が未整備の市街地で、土地の区画を整えつつ公共施設を整備することにより快適な住環境を創出し、宅地の利用増進を図る事業のこと。
- ミズベリング
水辺に興味を持つ市民・企業・行政が一体となり水辺の賑わいを創り出す活動のこと。

市民が考えた

「私たちにできること」



- 自宅周辺の公園や道路などに花を植えたり、清掃したりする
- 耕作放棄地を借り受け、緑化する

施策10

良好な生活環境を確保します

現状と課題

【現状】

- 健康に直結する大気環境や水環境などを、公害のない良好な生活環境に保持するように努めています。
- 雑草の放置、不快害虫の発生、犬猫のふん害など生活環境における苦情が増えてきています。
- 有害鳥獣による農作物被害や生活被害が発生しています。

【課題】

- 良好な生活環境の確保には、市民、事業者、市が一体となって取り組む必要があります。
- 地域の生活環境がより良く保たれるよう、市内河川のモニタリングなどによる監視を行い、公共用水域の水質を保全することが必要です。
- 計画的な公共下水道の整備や合併処理浄化槽の普及が必要です。
- 有害鳥獣による農作物被害や生活被害と、不快害虫の発生に対応する必要があります。

■ 典型7公害の苦情件数

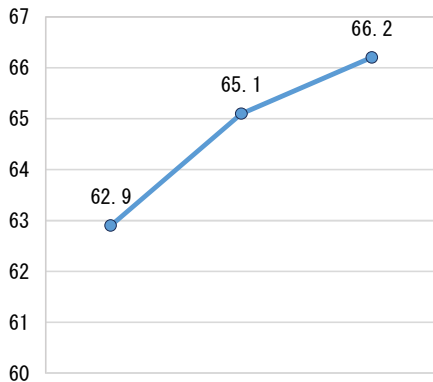
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
受付件数	208件	173件	178件

■ ポイ捨てごみの清掃活動の参加人数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
参加人数	4,185	4,798	4,687

■ 下水道普及率

(%)



平成25年度 平成26年度 平成27年度

資料：一宮市



事業展開の方向性

●良好な生活環境づくり

空き缶等ごみ散乱防止事業、路上喫煙防止事業、公害苦情相談事業、キソガワフユユスリカ対策事業

●公共下水道事業などの推進

公共下水道整備事業、合併処理浄化槽設置補助事業

●有害鳥獣等駆除の充実

有害鳥獣駆除事業、スズメバチ等駆除事業、不快害虫駆除事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①ポイ捨てごみの清掃活動の参加人数	4,687人	7,000人
②典型 7 公害の苦情件数	178件	170件
③下水道普及率	66.2%	68.3%

市民の体感指標

指標名	基準値
生活環境が良好であると思う人の割合	65.6%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

- 第2次一宮市環境基本計画
- 一般廃棄物（生活排水）処理基本計画
- 一宮市公共下水道事業計画
- 五条川右岸流域関連一宮市公共下水道事業計画
- 日光川上流流域関連一宮市公共下水道事業計画

用語説明

- 典型 7 公害
大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭の7種類の公害のこと。

市民が考えた

「私たちにできること」



- 害虫やごみ、景観の面などから雑草が生えたまま放置しない
- 不法投棄に目を光らせる

施策11

総合的な住宅対策に取り組みます

現状と課題

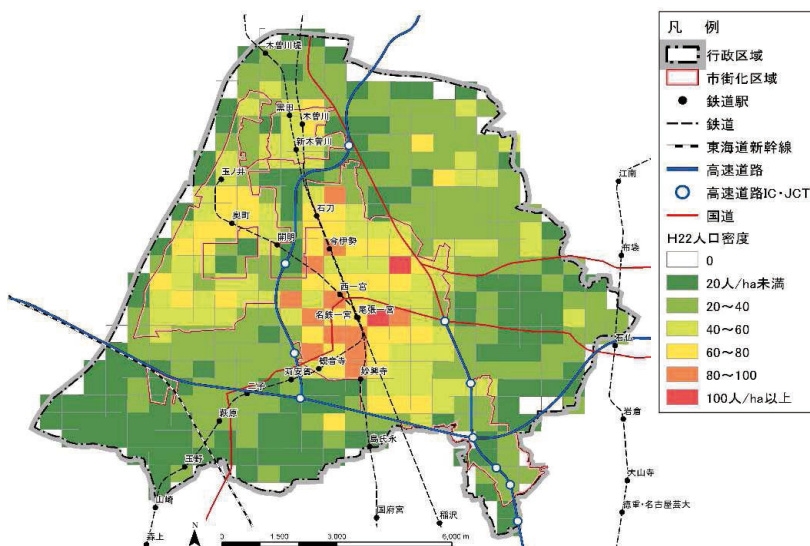
【現状】

- 近年、人口減少等に伴い、地域社会における高齢化問題・空き家問題が顕在化し、さらに地域コミュニティが希薄化しているなか、耐震化・リフォーム・既存住宅流通等の住宅ストック活用型市場への転換が遅れています。
- 老朽化マンション・空き家等の増加により、防災・防犯・衛生面での問題も発生しています。
- 居住地区は、市内のほぼ全域に広がっており、不効率な都市形態になっています。

【課題】

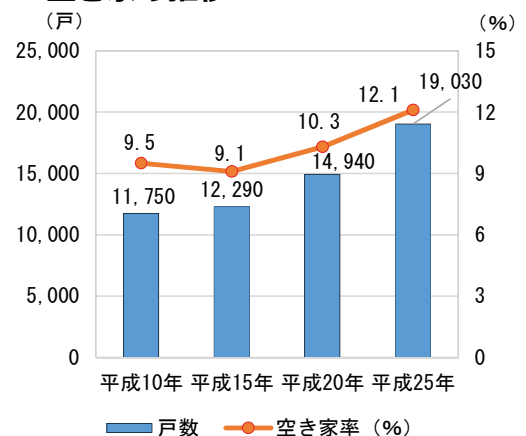
- 平成28年3月18日に閣議決定された住生活基本計画（全国計画）および愛知県住生活基本計画2025に基づき、子育て世帯・高齢者等が安心して暮らすことのできる住生活の実現、既存の住宅等の利活用の推進を図る必要があります。
- 市街地では、都市機能がコンパクトに集積した、歩いて暮らせるまちづくりを推進し、安心・安全で良好な居住環境の創出を図る必要があります。
- 郊外では、コミュニティや生活利便施設を維持するため、各種機能を一定のエリアに集約化する必要があります。

■人口分布の状況



資料：国勢調査（平成22年）

■空き家の推移



事業展開の方向性

●安全・安心に住み続けることのできる住まいづくり

民間木造住宅解体補助事業、民間木造住宅耐震診断事業、民間木造住宅耐震改修補助事業

●空き家等利活用の推進

空き家等対策事業、相続登記啓発事業

●良好な居住環境の創出

コンパクトなまちづくり推進事業、土地区画整理事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①住宅の耐震化率	72.8%	95.0%
②木造住宅解体工事費の補助件数	80件	150件
③空き家率	12.1%	12.1%

市民の体感指標

指標名	基準値
住宅が耐震や老朽化の観点から安心であると思う人の割合	37.1%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

- 一宮市都市計画に関する基本的な方針（一宮市都市計画マスタープラン）
- 一宮市住宅マスタープラン
- 一宮市空き家等対策計画
- 一宮市建築物耐震改修促進計画（改訂版）

市民が考えた

「私たちにできること」



- 耐震改修の補助等を活用し、自宅を耐震化する

用語説明

- 住生活
住居で営まれる生活のこと。建造物である住宅に対し、そこで営まれる生活を重視する立場から用いられる。

施策12

公共交通網の整備を進めます

現状と課題

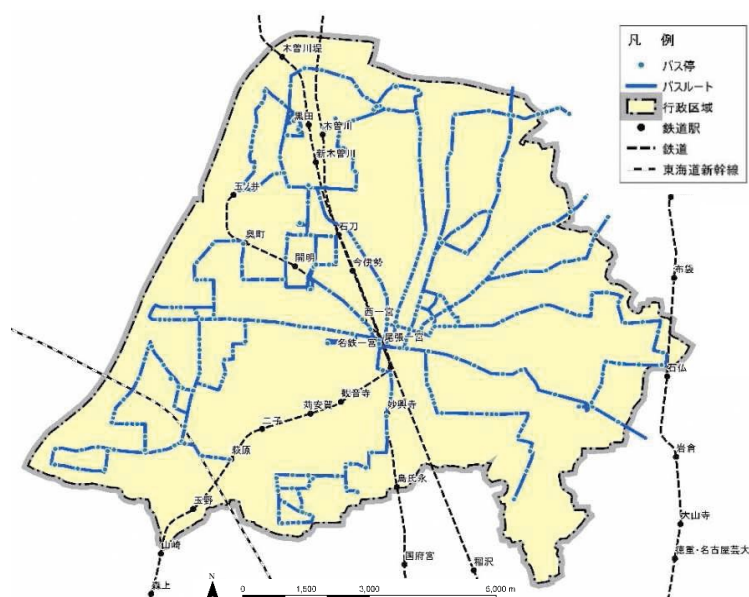
【現状】

- 本市の公共交通網は、名古屋市と岐阜市を結ぶJR東海道本線および名鉄名古屋本線が市の中央を縦断し、広域移動の幹線交通として機能しています。
- 一宮駅を中心に、名鉄尾西線および名鉄バス・**i**ーバス（一宮コース、千秋町コース、大和町・萩原町コース）が放射状に延び、市域内の拠点および隣接自治体との移動路線となっています。
- 鉄道や路線バスを補完する地域生活交通として、**i**ーバス（尾西北コース、尾西南コース、木曽川・北方コース）を運行しています。
- 個別需要に対しては、時間や場所の制約を受けない、タクシーが運行されています。

【課題】

- 高齢化が進むなか、市民が過度に車に依存することなく暮らすことができる公共交通網や、公共交通を利用しやすい環境の整備に取り組むことが必要です。
- 市内に点在する公共交通の利用が不便な地域の移動手段を確保するため、地域の実情に合った交通手段の検討・導入について、地域、交通事業者、市が一体となり、取り組んでいく必要があります。

■公共交通ネットワークの状況



資料：一宮市

■路線バス利用者数

路線	利用者数
一宮駅⇔尾西	1,274,163人
一宮駅⇔川島	357,370人
一宮駅⇔岩倉駅	917,014人
一宮駅⇔江南駅	907,518人
一宮駅⇔宮田本郷	634,149人
一宮駅⇔江南団地	117,281人
一宮駅⇔九日市場	170,215人
一宮駅⇔総合体育館	132,307人
一宮駅⇔イオン木曽川	57,910人
計	4,567,927人

■**i**ーバス利用者数

コース	利用者数
一宮コース	86,189人
尾西北コース	21,406人
尾西南コース	29,194人
木曽川・北方コース	18,590人
千秋町コース	41,750人
大和町・萩原町コース	51,359人
計	248,488人

■市内バス利用者数

合計	4,816,415人
----	------------

資料：一宮市（平成27年度）

事業展開の方向性

●体系的な公共交通の整備

一宮市地域公共交通会議開催事業、i-バス運行事業、バス路線維持対策事業

●公共交通の利用促進

公共交通利用促進事業

●公共交通を支える仕組みの確立

地域ワークショップ開催事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①市内バスの年間利用者数	4,816千人	4,900千人

市民の体感指標

指標名	基準値
市内の公共交通網が充実していると思う人の割合	35.0%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

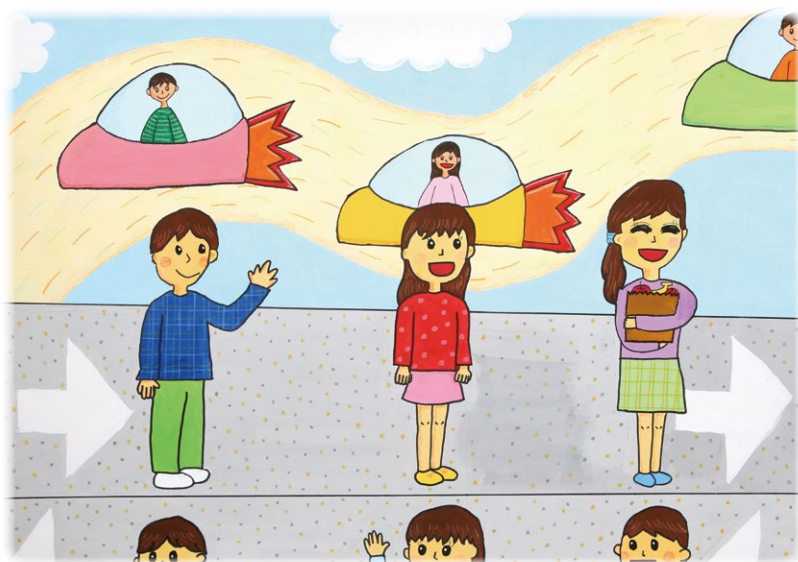
○第2次一宮市公共交通計画

市民が考えた

「私たちにできること」



○公共交通機関を積極的に利用する



施策13

歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します

現状と課題

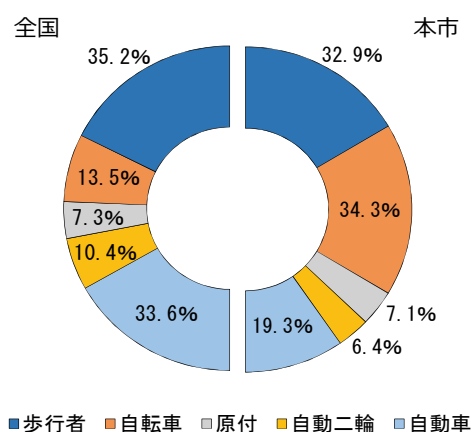
【現状】

- 健康や環境への意識が高まるなか、ウォーキングや自転車を利用する人が増えています。
- 平成22年から25年における本市の自転車関連の事故件数は、人口千人あたり年に1.93件で、全国平均の1.07件を大きく上回っています。
- 歩行者および自転車乗車中の死亡事故は、過去10年、あまり減っていませんが、交通事故全体に占める割合は、全国で48.7%に対し、本市は67.2%と大きく上回っています。
- 平成27年における歩行中および自転車乗車中の交通死亡事故は、15歳以下および65歳以上の年齢層で約3分の2を占め、他の年齢層に比べて非常に高くなっています。

【課題】

- 子どもや高齢者を事故から守り、誰もが安全に安心して外出できる交通環境の整備を行う必要があります。
- 道路空間構成の適正な再編・整備や安全施設の設置、障害物の撤去、ソフト施策などの総合的な取組を実施していく必要があります。

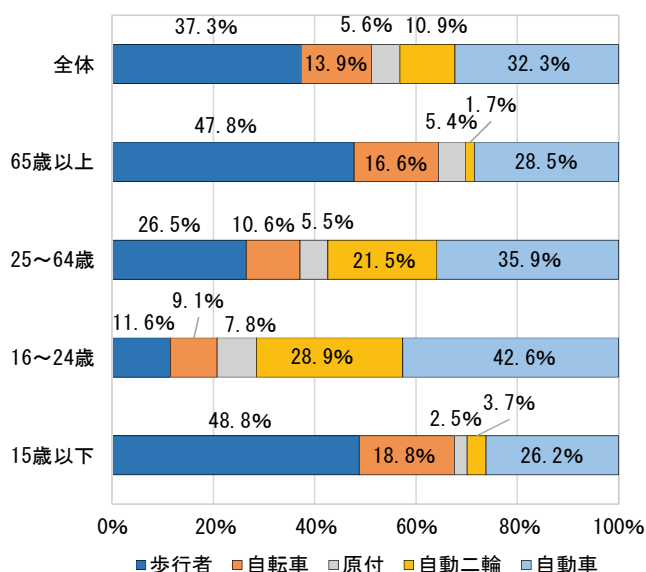
■ 交通事故死者の割合（状態別）



※平成18年から27年の交通事故

資料：警察庁交通局（平成28年3月30日）、
第10次一宮市交通計画

■ 交通事故死者の割合（状態・年齢層別）



資料：内閣府交通安全白書（平成27年）

事業展開の方向性

●人優先の安全で安心な歩行空間の整備

歩道拡幅事業（光明寺二ツ屋線・五城森上線）、幹線道路整備事業（福塚線・今伊勢北方線）、通学路安全対策事業

●安全で快適な自転車利用環境の整備

自転車利用環境整備事業、駐輪場管理事業

●危険箇所の減少

交通安全施設整備事業、不法占用物撤去事業

成果指標

指標名	基準値	目標値
①歩行者・自転車関連の交通事故件数	730件	610件

市民の体感指標

指標名	基準値
歩行者や自転車が、安心して通行できていると思う人の割合	28.3%

※各指標の算出方法は92から96ページを参照

関連する個別計画

- 第10次一宮市交通安全計画
- 一宮市通学路交通安全プログラム
- 一宮駅周辺自転車等駐車場整備基本計画
- （仮称）一宮市自転車ネットワーク計画



歩道整備後の通学路

市民が考えた

「私たちにできること」



- 運転中や歩きながらの携帯電話やスマートフォンの使用はしない
- 自転車に乗るときはヘルメットを着用する
- 自動車運転者は、通学時にはできる限り通学路を避けるなど歩行者に配慮する

